

台湾島北西部の干潟における大型草本スパルティナ・アルテルニフロラ生育地の観察記録



自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

黒田有寿茂

スパルティナ・アルテルニフロラ *Spartina alterniflora* は、北アメリカの大西洋岸とメキシコ湾岸の干潟に生育するイネ科の多年生草本です。本種は意図的な導入や非意図的な移入・逸出によって世界各地に分布を広げており、在来の生態系や産業に大きな影響を及ぼしています。日本では愛知県、熊本県、山口県で確認されており、その脅威から 2014 年に本種を含むスパルティナ属全種が特定外来生物に指定されています。

国内の侵入地ではアルテルニフロラの駆除が進められています。しかし根絶には至っておらず、今後他地域で確認されることも想定されます。このような中、東アジア地域における侵入・定着の実態を知ることは、本種のもつ生態系へのリスクや防除の対応を検討していく上で有用と考えられます。そこで近年本種の拡大が認められている台湾島北西部の状況を観察、記録しました。



新北市（淡水河の河口干潟）



苗栗縣（後龍溪の河口干潟）



新竹市（頭前溪の河口干潟）



台中市（溫寮溪の前浜干潟）

アルテルニフロラは在来のマングローブ植物や塩生植物が欠落する滞筋寄りや沖合の干潟に広がっていました。もし本種が国内の亜熱帯地域に侵入した場合、台湾島の状況をみる限り、その個体群が定着・拡大する可能性は非常に高いと考えられます。